



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：歯止めなきリヤルの下落（2012年のイラン経済）（1）

湾岸地域の経済・金融・エネルギー問題専門家 中嶋 猪久生

2012年は、米国やEUによる対イラン制裁強化の実施、ホルムズ海峡封鎖やイスラエルによる対イラン先制攻撃のニュースがまことしやかに流れるたびに、イラン通貨のリヤルは急落し、史上最安値を更新するという繰り返しであった。2013年もイランの核開発をめぐるP5+1との交渉の結果やさらなる制裁強化などがきっかけとなり、再びリヤルが変動し、イランの政治経済に大きな影響を及ぼすだろう。

イラン経済の先行きを占う参考として、2012年のリヤルの下落状況とそれに伴う国内の動きを以下のとおり取りまとめた。

<2012年のリヤルの動き>

2011年12月後半には1米ドル=13,000リヤル前後で終始した（以下は1米ドルあたりのリヤル換算額）。2012年に入って、大きく変動し、闇市場で1月に20,000リヤル、9月に30,000リヤル、10月には40,000リヤルへと暴落する動きとなった。その後、政府の対策によりやや沈静化したものの、12月中旬以降、再び30,000リヤルを割り込み（12月17日）、後半は33,500リヤル（12月24日）に落ち込んだ。2012年中のリヤル下落の主な動きは次のとおりである。

（注）現在の為替相場に関しては、政府・中央銀行が定める次のようなレートが適用される。

① 公定レート

基礎食品や医薬品などの輸入に適用されるレートで、2012年1月28日以降、1米ドル=12,260リヤル。

② 市場（オープン）レート

政府公認の両替所で適用されるレート。公定レートより割高。2011年11月頃までは公定レートの10%程度割高であったが、その後の追加制裁強化が発動された後は、さらなる割高状態（20～30%）が続いている。

2012年の市場では、政府による市場介入で投入される外貨（米ドルやユーロ等）が、金融制裁により需要を充足できないため、市場レートで必要とする外貨を調達できない場合が出てきている。両替商もリヤル急落のリスクを恐れ、外貨の売り惜しみをしたり、事実上の開店休業とすることもある。

③ 参照レート

2012年1月4日から同月27日まで、中央銀行の指示により、一時的に適用されたレート。

④ 闇市場レート

非公認の両替所で適用されるレート。市場レートで調達できない場合、このレートが適用されるため、実勢相場を反映しているともいえる。2012年9月前、闇市場の両替商は、一回あたりの取引で最大100万米ドルまで取り扱ってきたが、リアル変動リスクを懸念し、今では、10万米ドルに減らした、といわれている。

1月：オバマ大統領がイラン中央銀行をターゲットとする制裁法に署名したことを受けて（12月31日）、年初よりいきなり17,800リアルでスタート（1月2日）。その後、乱高下を繰り返す動きの中で、16,000リアル（1月26日）前後で推移。他方、闇市場では外貨の需給を反映して、ジリ安を続け、1月の最安値は23,000リアル（1月24日）となり、その後、21,000～22,500リアルで終始した。

市場が大混乱に陥った中で、政府・中央銀行がとった（1）政府による市場介入（1月2～4日）、（2）公定レート11,300リアルの切下げ（1月4日以降、14,000リアル、1月28日以降、12,260リアル）、（3）市場の現金を吸収することを狙った銀行の預金金利の引き上げ（15%から21%へ）などの緊急対策はいずれも後手に回り、市場介入も米ドルなど外貨投入額が十分でなかった。そのため、預金を取り崩した一般市民や小規模投資家による外貨・金買いにより、通貨・金市場でパニックが発生し、大量の現金が市場に出回る“過剰流動性”の状態になった。

2～3月 1月の混乱の影響を受けたが、やや戻し、19,000リアル前後で推移。

4～5月 一時的に20,000リアルに下落したが、総じて市場は落ち着き、15,000～16,630リアル（5月23日）の範囲内で推移。

6月 前月に比べ、ジリ安で、18,000～20,080リアル（6月28日）の範囲内で推移。

7～8月 2重の為替相場から3重の為替相場（基礎食品の輸入、機械・部品の輸入及び贅沢品の輸入に対するそれぞれのレート）へシフト。8月は20,000～21,850リアル（8月7日）で推移。

9～10月 9月に入り、制裁によるイラン経済への影響（原油輸出の減少や困難な貿易決済など）が顕著となってきたことで、リアルのさらなるジリ安が続き、24,600リアル（9月23

日) から 29,600 リヤル (9 月 30) に落ち込んだ。10 月 1 以降、さらに急落を続け、10 月 3 日には一時的に 40,000 リヤルを割り込んだ。その後、市場は持ち直し、10 月中旬以降は 25,000 リヤルで推移した。1 月に次ぐ 2 度目の通貨危機に対する政府の対策は、一部の基本品目の輸入業者に対し米ドル供給を目的とする「外貨交換センター」の設立 (9 月 24 日) のみであった。

10 月 3 日には、テヘランやマシュハドでは、リヤル急落やインフレなど経済悪化に抗議するバザール商人らが店舗を閉鎖し、ストライキに打って出た。大抗議デモも発生し、機動隊との衝突も起きた。テヘラン市内には機動隊と治安関係者で溢れかえり、外貨両替所が閉鎖されたり、無許可営業の両替商 16 人が逮捕されたりした。

11~12 月 10 月の第二次通貨危機の後、11 月に入ると、市場は落ち着きを取り戻したが、12 月後半には、ジリアンの徴候を示しながら、30,500 リヤル (12 月 17 日) ~33,500 リヤル (12 月 24 日) の範囲で推移した。

イラン：歯止めなきリヤルの下落 (2012 年のイラン経済) (2) に続く。